

金と銀の国 ジパング

輝きときらめきの美術

主催：徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・文化庁・中日新聞社
2017年4月15日(土)～5月28日(日)

「金」は長い年月を経ても変化することがなく、その性質から神秘性が付加され、崇高な輝きは太陽の光をイメージさせ、王者の威厳と風格をも象徴してきました。「銀」は、古代においては金よりも価値が高く、また「しろがね」と称され月の光に喩えられる清新な耀きとともに、「いぶし銀」と言う言葉に代表されるように、渋く奥行きのある耀きは、今日に至るまで金とともに特別な金属・色として享受されてきました。

貨幣はもとより、仏像や経典、あるいは堂内装飾をはじめとする荘厳具、金碧の障屏画 蒔絵や沈金などで加飾された調度品、純金・純銀の器類、金欄や縫箔による装束や衣服類、刀装具や甲冑、簪や首輪などの装身具に用いられてきた「金」と「銀」の日本における文化史をたどりつつ、その根底にある美意識を探求していきます。

- ・◎は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品です。
- ・所蔵欄には徳川美術館以外の所蔵先を記載しています。
- ・都合により出品作品が変更になることがあります。
- ・目録の順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。

展示期間

前期：4月15日～5月7日 後期：5月9日～5月28日

A：4月15日～30日 B：5月1日～14日 C：5月16日～28日

上記のほか、☆印の作品は期間中に場面替えを行います。

No.	指定 作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
一 金銀の貨幣					
1	永楽通宝(金銭)	桃山	16		
2	永楽通宝(銀銭)	桃山	16		
3	和銅銀銭	江戸	17		
4	寛永通宝(金銭)	江戸	17		
5	寛永通宝(銀銭)	江戸	17		
6	永楽通宝(銀銭) 霊仙院千代姫墓所出土品 五百七十七枚 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
7	蛭藻金	室町	16		白鶴美術館
8	譲葉金	室町	16		白鶴美術館
9	甲州一両判金	桃山-江戸	16-17		白鶴美術館
10	甲州四ッ桐一両判金	桃山-江戸	16-17		白鶴美術館
11	甲州一分金	桃山-江戸	16-17		個人
12	甲州二朱金	桃山-江戸	16-17		個人
13	甲州一朱金	桃山-江戸	16-17		個人
14-1	甲州露一両金	桃山-江戸	16-17		白鶴美術館
14-2	甲州露一両金	桃山-江戸	16-17		個人
15	甲州菩薩金	桃山-江戸	16-17		白鶴美術館
16	甲州駒大判金	桃山-江戸	16-17		白鶴美術館
17	天正菱大判金	桃山	天正16-19年 <1588-91>		白鶴美術館
18	天正大判金	桃山	天正18年 <1590>		白鶴美術館
19	天正長大判金	紀伊徳川家伝来	桃山	文禄4年-慶長5年 <1595-1600>	白鶴美術館
20	大仏大判金	紀伊徳川家伝来	江戸	慶長13-17年 <1608-12>	白鶴美術館
21	織田信長軍用大判金	桃山	16		白鶴美術館

No.	指定 作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
22	武田信玄菱大判金	加賀前田家伝来	桃山	16	白鶴美術館
23	上杉謙信高田大判金	加賀前田家伝来	桃山	16	白鶴美術館
24	太閤祝大判金		桃山	16	白鶴美術館
25	太閤讓葉大判金		桃山-江戸	16-17	白鶴美術館
26	太閤大福寿大判金		桃山-江戸	16-17	白鶴美術館
27	角大判金		桃山-江戸	16-17	白鶴美術館
28	大莖大判金	紀伊徳川家伝来	桃山-江戸	16-17	白鶴美術館
29	雁金	加賀前田家伝来	桃山-江戸	16-17	白鶴美術館
30	甲子大黒金		桃山-江戸	16-17	白鶴美術館
31	黄金分銅金	徳川家康所用	江戸	17	前期 宮内庁三の丸尚蔵館
32	慶長大判金		江戸	慶長6年<1601>以降	白鶴美術館
33	慶長笹書大判金		江戸	慶長6年<1601>以降	白鶴美術館
34	駿河大判金(武蔵大判)	秋元子爵家伝来	江戸	17	白鶴美術館
35	享保大判金		江戸	享保10年-天保8年 <1725-1837>	
36	万延大判金		江戸	万延元年-文久元年 <1860-61>	
37	享保小判金		江戸	正徳4年-元文元年 <1714-36>	個人
38	元文小判金(真文小判)		江戸	元文元年-文政元年 <1736-1818>	個人
39	文政小判金(草文小判)		江戸	文政2年-11年 <1819-28>	個人
40	天保小判金		江戸	天保8年-安政5年 <1837-58>	個人
41	万延小判金		江戸	万延元年-慶応3年 <1860-67>	個人
42	慶長一分判金		江戸	慶長6-元禄8年 <1601-95>	個人
43	天保二朱金		江戸	天保3年-安政5年 <1832-58>	
44	桐紋丸金		江戸	17	
45	葵紋丸金		江戸	17	個人
46	石州丁銀		室町	16	白鶴美術館
47	古丁銀		室町	16	白鶴美術館
48	讓葉丁銀		室町	16	白鶴美術館
49	萩切銀		室町	16	白鶴美術館
50	御公用銀		室町-桃山	16	白鶴美術館
51	博多御公用銀		桃山	文禄2年 <1593>	白鶴美術館
52	山口天又切銀		桃山	16	白鶴美術館
53	丁銀				
	文政丁銀		江戸	文政3年-天保8年<1820-37>	
	天保丁銀		江戸	天保8年-安政5年<1837-58>	
	安政丁銀		江戸	安政6年-慶応元年<1859-65>	
54	豆板銀				
	元禄両面大黒豆板銀		江戸	元禄8年-宝永3年<1695-1706>	
	文政豆板銀		江戸	文政3年-天保8年<1820-37>	
	天保豆板銀		江戸	天保8年-安政5年<1837-58>	
	安政豆板銀		江戸	安政6年-慶応元年<1859-65>	
55	南銀壹両判		江戸	18-19	
56	天保一分銀		江戸	天保8年-安政元年<1837-54>	
57	安政一分銀		江戸	安政6年-慶応4年<1859-68>	

No.	指定 作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
58	嘉永一朱銀	江戸	嘉永6年-慶応元年<1853-65>		
59	秋田銀判(小判形・角形・延判)	江戸	文久3年<1863>以降		白鶴美術館
60	南鐐大判銀	江戸	19		白鶴美術館

二 純金の器 純銀の器

純金の器

61	純金天目 伝豊臣秀吉所用	桃山	16		個人
62	◎ 純金台子皆具 一具 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
63	◎ 純金葵紋蜀江文棗 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
64	◎ 純金香盆飾り 一具 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
65	◎ 純金香盆飾り 一具 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
66	◎ 純金葵紋蜀江文沈箱 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
67	◎ 純金葵紋散蜀江文硯箱 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
68	◎ 純金葵紋牡丹唐草文盃 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
69	◎ 純金葵紋蜀江文皿 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
70	◎ 純金葵紋蜀江文薬茶碗 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
71	◎ 純金葵紋蜀江文薬茶碗 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
72	◎ 純金葵紋蜀江文薬鍋 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		

純銀の器

73	銀花鳥文四脚盤	奈良	8		大和文華館
74	◎ 葵紋亀甲繫文薫物壺 (初音蒔絵薫物壺・台 附属) 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年 <1639>		
75	◎ 銀香盆飾り 一具 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
76	銀唐草文透彫廻り香炉 俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	18		
77	銀橘打枝床飾香炉	江戸	18-19		
78	銀花籠形香炉	江戸	18-19		個人
79	銀雁形大香炉	江戸	18-19		個人
80	銀葵紋七宝繫文丁字風炉 一組	江戸	19		個人
81	銀葵紋霰釜 徳川齐温(尾張家11代)所用	江戸	19		
82	銀葵紋霰水指 徳川齐温(尾張家11代)所用	江戸	19		
83	銀葵紋蓬萊文長柄銚子・提子 一对	江戸	19		個人
84	銀葵・抱牡丹紋菊折枝文茶碗 俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)・ 貞徳院矩姫(尾張家14代慶勝正室)所用	江戸	19		
85	銀葵紋唐草文薬罐	江戸	19		個人
86	銀葵紋薬罐	江戸	19		個人
87	銀葵紋唐草文銚子	江戸	17		
88	銀葵紋唐草文銚子	江戸	18-19		
89	銀葵紋菊水文銚釐 附 菊水蒔絵袴	江戸	19		個人
90	銀葵紋唐草文皿	江戸	17		個人
91	銀唐草文切立・湯ノ子取	江戸	19		個人

No.	指定 作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
92	銀葵紋唐草文野風炉 徳川齊荘(尾張家12代)所用	江戸	19		個人
93	銀葵紋角形水入	江戸	19		個人
94	銀泔坏・葵紋蒔絵泔坏台 伝霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	17		
95	◎ 銀葵紋唐草文手拭掛	江戸	17		
96	◎ 銀蓬萊文童子(初音蒔絵函黒箱 附属) 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年 <1639>		
97	銀蓬萊文鉄漿道具 (菊折枝蒔絵渡金箱 附属) 俊恭院福君(尾張家11代齊温継室)所用	江戸	19		
98	◎ 銀水滴各種(初音の調度 附属) 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年 <1639>		
99	銀菊折枝形文鎮	江戸	18		
100	銀橘折枝形文鎮	江戸	18		
101	銀冠形文鎮	江戸	18-19		
102	銀蓑亀形文鎮	江戸	18-19		

三 もののふの晴れ姿

103	銀溜白糸威具足 徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17		
104	銀箔置白糸威具足 松平通温(尾張家3代綱誠19男)所用	江戸	18		
105	金箔置紅糸威具足 徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)着用	江戸	18		
106	銀製鍍金透彫菊文刀把	鎌倉	13-14		大和文華館
107	◎ 金造亀甲繫文腰刀拵	桃山-江戸	16-17		個人
108	金造刻鞘腰刀拵	桃山-江戸	16-17		個人
109	葵紋散螺鈿黄金造太刀拵 徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17		
110	葵紋黄金造太刀拵 徳川将軍家伝来	江戸	18		
111	葵紋兵庫鎖太刀拵 徳川宗春(尾張家7代)・宗睦(同家9代)所用	江戸	18		
112	獅子に牡丹図目貫 無銘 祐乘(後藤家初代)	室町	16		
113	獅子図目貫 無銘 乗真(後藤家3代)	室町	16		
114	瓜に栗鼠図目貫 無銘 乗真(後藤家3代)	室町	16		
115	葡萄栗鼠図目貫 無銘 徳乗(後藤家5代)	室町	16		
116	雁図目貫 無銘 寿乗(後藤家12代)	江戸	18		
117	草花図目貫 銘 西邑代満	江戸	19		
118	兔図目貫	江戸	18-19		
119	菊に蝶虻図目貫	江戸	19		
120	桐鳳凰図赤銅鐺 銘 菊岡光利(花押) 大小二枚	江戸	18-19		
121	黄蜀葵図赤銅鐺 銘 尾州住一光堂(印) 大小二枚	江戸	18-19		
122	金銀格子透鉄鐺 銘 鍛政常彫友清 大小二枚	江戸	19		
123	銀小刀 各種 寿命・国友充雄作	江戸	文政11年<1828>		
124	桔梗銀象嵌鎧 加藤清正所用	桃山	16		
125	金沃懸地獅子螺鈿鞍	江戸	18		
126	金土俵空穂 朝岡重政所用	桃山	16		

以上

金と銀の国 ジパング

輝きときらめきの美術

主催：徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・文化庁・中日新聞社
2017年4月15日(土)～5月28日(日)

「金」は長い年月を経ても変化することがなく、その性質から神秘性が付加され、崇高な輝きは太陽の光をイメージさせ、王者の威厳と風格をも象徴してきました。「銀」は、古代においては金よりも価値が高く、また「しろがね」と称され月の光に喩えられる清新な輝きとともに、「いぶし銀」と言う言葉に代表されるように、渋く奥行きのある輝きは、今日に至るまで金とともに特別な金属・色として享受されてきました。

貨幣はもとより、仏像や経典、あるいは堂内装飾をはじめとする荘厳具、金碧の障屏画 蒔絵や沈金などで加飾された調度品、純金・純銀の器類、金欄や縫箔による装束や衣服類、刀装具や甲冑、簪や首輪などの装身具に用いられてきた「金」と「銀」の日本における文化史をたどりつつ、その根底にある美意識を探求していきます。

- ・◎は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品です。
- ・所蔵欄には徳川美術館以外の所蔵先を記載しています。
- ・都合により出品作品が変更になることがあります。
- ・目録の順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。

展示期間

前期：4月15日～5月7日 後期：5月9日～5月28日

A：4月15～30日 B：5月1～14日 C：5月16～28日

上記のほか、☆印の作品は期間中に場面替えを行います。

No.	指定	作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
四 信仰のあかし—荘厳—						
金・銀に耀く仏						
127	◎	金銅菩薩立像	飛鳥	7		大阪市立美術館
128	○	金銅釈迦如来立像	奈良-平安	8-10		大阪市立美術館
129	◎	銀仏手	奈良	8		興福寺
130	◎	厨子入銀造阿弥陀如来像	鎌倉	13		浄厳院
131	◎	阿弥陀如来立像	平安	康和4年 <1102>頃		地蔵院
132		菩薩立像	平安	12		個人
133		地蔵菩薩立像	鎌倉	13		個人
134		不動明王立像	平安	12		根津美術館
135-1	◎	十二天像 羅刹天 十二幅の内	平安	大治2年 <1127>	前期	京都国立博物館
135-2	◎	十二天像 帝釈天 十二幅の内	平安	大治2年 <1127>	後期	京都国立博物館
136		千手観音菩薩像	平安	12	後期	個人
137	◎	閻魔天像	平安	12	前期	個人
138	◎	普賢延命菩薩像	鎌倉	13	後期	個人
139	◎	愛染明王像	鎌倉	13-14	前期	個人
写経						
140	◎	紫紙金字金光明最勝王経 巻第六 二巻の内	奈良	8	☆	
141		紺紙銀字華嚴経(二月堂焼経)	奈良	8	☆	京都国立博物館

No.	指定 作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
142	無量義經 残欠(愛知切) 伝藤原行成筆	平安	10-11	後期	個人
143	○ 紺紙金銀交書賢却經(中尊寺一切經) 卷第二・十二 二巻の内	平安	12	☆	個人
144	紺紙金字阿毗達磨雜集論(藤原秀衡願經)	平安	12	☆	個人
145	紺紙金字一字蓮台法華經	平安	12	前期	個人
146	◎ 久能寺經 法師功德品	平安	永治元年 <1141>	☆	五島美術館
147	◎ 平家納經法華經 三十三巻の内 見宝塔品 安樂行品 寿量品	平安	長寛2年 <1164>	A B C	巖島神社
148	◎ 法華經 普門品(色紙本)	平安	12	後期	京都国立 博物館
149	◎ 法華經 普門品	平安	12	前期	
150	法華經 藥王品 断簡	平安	12	後期	個人
151	金銅孔雀形金具	平安	12		個人
152	◎ 金銅蓮華形磬	鎌倉	13		大和文華館
153-1	金銀鍍宝相華唐草文透彫華籠	平安	12		個人
153-2	金銀鍍宝相華唐草文透彫華籠	鎌倉-南北朝	13-14		個人
154	金銅尾長鳥宝相華唐草文透彫華鬘	平安-鎌倉	12-13		個人
155	◎ 銀鍍金宝相華文透彫光背 金銅阿弥陀如来像	鎌倉	13		四天王寺
156	銀鍍金宝相華唐草文透彫經箱	南北朝	14		大阪市立 美術館
157	◎ 金銅蓮唐草文透彫經箱	室町	16		出光美術館
158	金聖像 五軀 徳川義直(尾張家初代)所持	江戸	17		

五 料紙を彩る金と銀

金銀泥絵

159	柶尾切 桂宮本万葉集 源兼行筆	平安	11	前期	個人
160	柶尾切 桂宮本万葉集 源兼行筆	平安	11	後期	個人
161	○ 太田切 和漢朗詠集 伝藤原公任筆	平安	11	後期	個人
162	筋切 古今和歌集 藤原定実筆	平安	12	後期	個人
163	石山切 貫之集下 藤原定信筆	平安	天永3年 <1112>頃	前期	個人
164	◎ 葉月物語絵巻 詞書 伝後二条天皇筆 十二面の内 第一段・第三段	鎌倉	14	☆	
165	新撰朗詠集抄 後円融天皇筆	南北朝	14	☆	
166	源氏物語拔書 後花園天皇筆	室町	15		石山寺

金銀切箔散らし

167	大字和漢朗詠集 伝藤原行成筆	平安	11	前期	個人
168	石山切 貫之集下 藤原定信筆	平安	天永3年 <1112>頃	後期	個人

No.	指定 作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
169	◎ 源氏物語絵巻 詞書 四十三面の内 横笛・橋姫	平安	12	☆	
170	○ 戊辰切 和漢朗詠集 卷上 藤原伊行筆	平安	12	後期	個人
171	中山切本古今和歌集 伝九条兼実筆	平安-鎌倉	12-13	☆	個人
172	粟生野切 往生講式 伝円光大師筆	鎌倉	建久8年 <1197>		個人
173	後拾遺和歌集 伝後光厳天皇筆	鎌倉	13-14	☆	個人
174	満願寺文殊堂勸進文 伝尊道親王筆	南北朝-室町	14-15	☆	

近世初期の料紙装飾

175	◎ 源氏物語画帖 絵 土佐光吉・長次郎他筆 四帖の内一帖	桃山	17	☆	京都国立 博物館
176	◎ 歌舞伎図巻 詞書 伝烏丸光広筆 二巻の内下巻	江戸	17	☆	
177	◎ 鶴下絵三十六歌仙和歌巻 書 本阿弥光悦筆・下絵 俵屋宗達筆	桃山-江戸	17	後期	京都国立 博物館
178	四季花鳥下絵新古今集和歌色紙帖 書 本阿弥光悦筆・下絵 伝俵屋宗達筆	江戸	17	後期	五島美術館
179	百番謡本 伝観世黒雪筆 百帖の内 肥前松浦家伝来 岡谷家寄贈	江戸	17	前期	

六 室礼—絢爛と静寂—

180	◎ 四季花木図屏風 六曲一双	室町	15	前期	出光美術館
181	◎ 日月山水図屏風 六曲一双	室町	15-16	後期	金剛寺
182	草花図屏風 伝狩野永徳筆 四曲一隻	桃山	天正18年 <1590>	C	宮内庁三の 丸尚蔵館
183	草花図 伊年印 四面	江戸	17	C	京都国立 博物館
184	四季花鳥図屏風 伝狩野山楽筆 六曲一双	江戸	17	AB	
185	◎ 夏秋草図屏風 酒井抱一筆 二曲一双	江戸	文政4・5年 <1821・22>	A	東京国立 博物館
186	◎ 百花百草図屏風 田中訥言筆 六曲一双の内 岡谷家寄贈	江戸	19	☆	
187	若竹鶴鴿図屏風 田中訥言筆 二曲一隻	江戸	19	後期	名古屋市 博物館
188	四君子図屏風 山本梅逸筆 六曲一双	江戸	19	BC	森村記念館

七 調度を飾り 器をいろどる

燦めく蒔絵

189	◎ 長生殿蒔絵手箱	鎌倉	13-14		
190	葵紋浪蒔絵碁笥 一对	桃山-江戸	16-17		
191	桐鳳凰蒔絵文台・硯箱 徳川家康所用	桃山-江戸	16-17		
192	◎ 沃懸地青貝金貝蒔絵群鹿文笛筒 伝本阿弥光悦作	江戸	17	前期	大和文華館
193	葵紋扇面散蒔絵鼓箱(荻田蒔絵鼓 附属) 徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17		
194	武蔵野蒔絵貝桶 一对 伝相応院(尾張家初代義直生母)所用	江戸	17		
195	◎ 初音蒔絵大角赤手箱 霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年 <1639>		

No.	指定 作品名称・伝来など	時代	世紀	期間	所蔵
196	◎ 胡蝶蒔絵掛硯箱 靈仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年 <1639>		
197	葵紋色紙短冊蒔絵書物箱 (左大將家百番歌合 附属)	江戸	17		個人
金彩のある陶磁器					
198	○ 色絵武蔵野図茶碗 野々村仁清作	江戸	17		根津美術館
199	色絵金銀菱繫文茶碗 野々村仁清作 近衛家伝来	江戸	17		愛知県陶磁 美術館
200	◎ 色絵山寺図茶壺 野々村仁清作	江戸	17		根津美術館
201	◎ 色絵釘隠 伝野々村仁清作 二十一箇の内 丸亀京極家伝来	江戸	17		京都国立 博物館
202	色絵花盆文大皿 伊万里	江戸	17		愛知県陶磁 美術館
203	色絵草花文刺身皿 伊万里	江戸	18		個人
204	色絵故事人物図深鉢 伊万里	江戸	19		個人

八 身に纏う—装いの中の金と銀—

205	黄地枝垂桜に尾長鳥文金襴長絹	江戸	18	前期	
206	紫地朝顔・石竹文金襴長絹	江戸	18	後期	
207	紺地唐花文金襴袷法被	江戸	18	前期	
208	白地唐花唐草文金襴袷法被	江戸	18-19	後期	
209	白地紅葉青海波文縫箔	江戸	18	前期	
210	紅地金鱗文摺箔	江戸	17-18	後期	
211	胴箔桜折枝文鬘帯	江戸	18		
212	胴箔水葵文鬘帯	江戸	17-18		
213	胴箔桐唐草文鬘帯	江戸	18-19		
214	胴箔萩・菊・桔梗文鬘帯	江戸	18		
215	胴箔秋の野文腰帯	江戸	18		
216	胴箔稲穂文腰帯	江戸	18-19		
217	黒紅練貫地吉祥文腰巻	江戸	19	前期	
218	白綸子地鼓に藤・杜若文打掛 貞徳院矩姫(尾張家14代慶勝正室)着用	江戸	19	後期	
219	黒羅紗地子犬に雪持万年青図笠迫	江戸-明治	19		
220	茶天鷲絨地波に燕図笠迫	江戸-明治	19		
221	銀胴締	江戸	19		
222	金地波に兎図紙入	江戸-明治	19	後期	
223	緋羅紗地桜に鷹図煙草入	江戸-明治	19	前期	
224	銀懐中簪 三本	江戸-明治	19		
225	びらびら簪 二対	江戸-明治	19		
226	橘打枝 大・小	江戸	19		